

第二回館山市議定会例會會議錄

(第二号)

昭和四十五年六月招集

第二回館山市議會定例会會議錄（第二号）目次

| | | |
|------------------|-------|----|
| 日 時 | | 四 |
| 場 所 | | 四 |
| 出席議員 | | 四 |
| 欠席議員 | | 五 |
| 出席説明員 | | 五 |
| 出席事務局職員 | | 六 |
| 議事日程 | | 六 |
| 開 議 | | 七 |
| 議案の上程（報告第三号 第四号） | | 八 |
| 議案の上程（議案第四十五号） | | 八 |
| 採 決 | | 九 |
| 議案の上程（議案第四十六号） | | 九 |
| 採 決 | | 一〇 |

| | |
|----------------------|----|
| 議案の上程（議案第四十七号） | 一〇 |
| 採決 | 一一 |
| 議案の上程（議案第四十八号） | 一一 |
| 採決 | 一二 |
| 議案の上程（議案第四十九号） | 一二 |
| 採決 | 一三 |
| 議案の上程（議案第五十号） | 一三 |
| 採決 | 一四 |
| 議案の上程（議案第五十一号） | 一四 |
| 質疑応答 | 一五 |
| 採決 | 二三 |
| 議案の上程（議案第五十二号、第五十三号） | 二三 |
| 採決 | 二四 |
| 議案の上程（議案第五十四号） | 二四 |
| 採決 | 二五 |
| 議案の上程（議案第五十五号） | 二五 |
| 質疑応答 | 二六 |
| 採決 | 三三 |

| | |
|----------------------------|----|
| 議案の上程（議案第五十六号） | 三三 |
| 質疑応答 | 三四 |
| 採決 | 四五 |
| 議案の上程（議案第五十七号、第五十八号） | 四六 |
| 質疑応答 | 四六 |
| 採決 | 五二 |
| 日程の追加 | 五二 |
| 常任委員会委員の選任 | 五三 |
| 日程の追加 | 五五 |
| 館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員補欠選挙 | 五五 |
| 閉会 | 五六 |
| 本日の会議に付した事件 | 五七 |

第二回館山市議定会例會會議錄（第二号）

昭和四十五年六月招集

一、昭和四十五年六月十一日（木曜日）午前十時

一、館山市議会本會議場

一、出席議員 二十五名

一番 吉田勇治郎

三番 嶋田石蔵

五番 藤田益治

七番 白熊盛太郎

九番 三幣勇

一番 菊井敏博

一五番 石井正

一七番 江田德太郎

一九番 島野茂樹郎

二二番 小沢恵太郎

二番 石井輝久

四番 伊賀多朗

六番 磯辺博

八番 黒川正

一〇番 西村真次

一四番 遠山ヨネ子

一六番 五十嵐昇

一八番 安西益男

二〇番 中村省吾

二三番 飯田義男

二五番 田村源治郎

二六番 秋山大三郎

二七番 安沢徳順

二八番 望月照正

二九番 鈴木市蔵

一、欠席議員 三名

一二番 小柴孝

二四番 田中祿郎

三〇番 山口康

一、出席説明員

市長 本間 議

助役 島山 伝

収入役 高木 哲三

秘書課長 太田 博雄

人事課長 小沢 正治

企画課長 伊藤 幸太郎

庶務課長 小倉 澄男

財政課長 長谷川 広治

市民課長 佐野 甲子郎

調査課長 越路 良夫

収納課長 横溝 功

農産課長 石井 謀

水産課長 谷貝 茂生

商工観光課長 山田 俊康

土木課長 飯田 治男

建築課長 池田 春雄

衛生課長 牧野 喜一

保健課長 網島 憲治

水道課長 大嶋 重義

福祉事務所長 斉藤 武男

市民センター館長 羽山 房雄

診療所事務長 吉岡 政雄

消防長 星野清之助
教育委員 高木正
教育委員 吉田隆夫
学校教育委員 小宮義夫
社会教育課長 石原齊
監査事務局長

消防本部次長 岩田
教育委員 川崎政光
保健体育委員 鈴木賢爾
選挙管理委員 岩崎一
農業委員 長倉
事務局長 長倉

一、出席事務局職員
事務局長 高梨清一
書記 兵藤恭一
書記 渡辺弘
書記 木高松雄

事務局長補佐 高尾豊
書記 錦織睦子
書記 川上義雄

一、議事日程(第二号)

昭和四十五年六月十一日午前十時開議

日程第一 報告第三号 財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について

日程第二 報告第四号 昭和四十四年度館山市繰越明許費繰越計算書の報告について

議案第四十五号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第四十六号 昭和四十五年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

日程第四 議案第四十七号 館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

日程第五 議案第四十八号 館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定について

日程第六 議案第四十九号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

日程第七 議案第五十号 利率等の年利建て移行に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について

日程第八 議案第五十一号 館山市国民健康保健税条例の一部を改正する条例の制定について

日程第九 議案第五十二号 簡易水道事業の給水区域の変更について

日程第十 議案第五十三号 館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第十一 議案第五十四号 館山市署名登録条例の制定について

日程第十二 議案第五十五号 館山市交通遺児手当支給条例の制定について

日程第十三 議案第五十六号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の制定について

議案第五十七号 昭和四十五年度館山市一般会計補正予算(第二号)

議案第五十八号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

開 議

午前十時四分 開 議

○ 議長 (西村真次君) 本日の出席議員数二十一名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。この際、議事について申し上げます。本日の日程各議案の説

明は先日の会議のかりに終つておりますので、本日は直ちに質疑より行ないます。

(八)

議案の上程

○議長（西村真次君） 日程第一、報告第三号財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について、報告第四号昭和四十四年度館山市繰越明許費繰越計算書の報告についてを議題といたします。

報告第三号 財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について
報告第四号 昭和四十四年度館山市繰越明許費繰越計算書の報告について

○議長（西村真次君） 御質疑ございませんか。——御質疑ございませんでしたら次の日程に進みます。

議案の上程

○議長（西村真次君） 日程第二、議案第四十五号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十五号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第三、議案第四十六号昭和四十五年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十六号 昭和四十五年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第四、議案第四十七号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十七号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第五、議案第四十八号館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十八号 館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第六、議案第四十九号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十九号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第七、議案第五十号利率等の年利建て移行に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてを議題といたします。

○ 議案第五十号 利率等の年利建て移行に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第八、議案第五十一号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十一号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 二、三お伺いしておきたいと思っています。

一つはですね。説明資料によりますと、今年度の国保税の値上り高は一八・二%の増である。こういう御説明でございまして、国保税を算定する場合には資料にもありますように、所得割あるいは資産割、均等割、平等割というように、それぞれ算定をするわけですが、私の試算が間違つておらなければそれぞれの割合が、いわゆる増加割合といえますか、それが、均等割が一番増加をしている。固定資産割は八・二%ぐらい、それから所得割一八・三%、均等割二三%、平等割が一九%、したがつて平均の一八・二%の増から比べますと、均等割だけが特によけい増税されている。資産割が少ない。こういうような計算になるのですけれども、この点についても少し負担の平等といひますようか、均等化をはかることはできないだろうか。私は技術的にどうやつたらいいかということとはわかりませんが専門家の立場から教えていただきたいと思います。

それからもう一つは、条例によりますと、五万円でこれは打ち切りになつておるはずですが。総額が五万円を越える場合には五万円までとする。こういうふうにきめられておるわけでございますが、今年度あたり単純に算出をした場合には五万円以上を越える額というのが相当あるのではないかと、いうふうに思います。その額は試算によつては一体幾らぐらいであるか。その場合に打ち切られた分はどこでどういふふうにして課税をされているのか、この二つについてお聞かせいただきたいと思います。

○ 保健課長 (綱島憲治君) 第一点でございますが、これは大もとななるものは資料の二の課税総額の課税配分額と

れによるものでございますけれども、これはなるほど一つ一つ取り上げて見ますと、それぞれパーセンテージはそのように相なるわけでございますけれども、ここで私どものほうで所得割は市民税を基準としているわけがありますが、この八千幾らの世帯の中に所得割として賦課されるものは二千六百三十九世帯ということになっております。そのほかの人たちはこの所得割に類する額はないわけでございます。均等割を納めている方たちは所得割に匹敵するものは一銭もかかってないわけでございます。これは昭和三十九年ですか、保険料から保険税に改めるときにその前後の勘案をいたしまして、そのような課税配分額を算出してあります。そういうわけでございますので、一つ一つで均衡ということばかりとむずかしい問題であろうかと思いますが、現在のところ私もこれをどのようにして果して均衡が取れている数字であろうかということは、私は検討を要することであろうかと思っております。現在のところはその当時の状況をそのまま踏襲してやつておるわけでございます。なお、この関係につきましては、市長がお話になつたように抜本改正の関係がここにひつかかってくるのでございます。そういうことがありますので、三年前に二年後そういう標準保険税というものを設定するのだ。こういうふうな政府の計画がありましたので、私もそれはそれを現在のところ待つておるような状況でございます。

それから、五万円の打ち切りの額でございますけれども、昭和四十四年度におきまして約百六十世帯約六百万、こういうふうに数字の上ではなっております。本年度のものについては税率を決定し、計算しなければもちろん出てこないわけでございます。その額をどうするのだということでございますが、それは資料の一の調定額というところをごらんいただきたいと思いますが、これは必要な予算額を出しまして、それぞれ減るであろうと思われるものを引いて逆算して出す仕組みになつております。その中で調定額というところに課税総額マイナス保険税軽減減額掛ける百分の九十五、これがつまり百分の五が総体の中で打ち切りされる額である。こういうふうにお考えをいただきます。以上

であります。

○ 一九番 (島野茂樹郎君)

御説明大体わかりますけれども、ただ若干納得がいかないところは、個々において取り

上げるといふことはあるいは間違いかもしますが、しかしちよつと計算して見ますと均等割が一番よけい増額されている。資産割等については八・二%ぐらいしか増額されていない。その平均が一八・二%だとすると均等割だけがよけい上り過ぎていふような気がするわけです。百分の二十二あるいは二十、四十一、十七というのはこれはたしか前の条例の中ではあつたと思ひますけれども、今は二十二、二十、四十一、十七という数字は条例をさがしても見あたらないんですが、何から出てきたのかというのが疑問にもなりますが、これは今の三十九年の条例制定のときにこの数字を出してそれが踏襲されているのだ。こういうことですからわからないわけではありません。しかし、この数字も条例にもなくなつたし、一体これが今でも正しいのかどうか。もし不合理がどこにあるとすれば直さなければならぬという気もするわけですが、条例にはないし、地方税法ですか、そういう中にも出ていないということになりますと、どこでどういふふうに是正をするのかという疑問も一つ出て参りますが、その点についてもお聞かせ願ひたいし、それから九五%の分ですけれども、本年度の分は五%が五万円以上のものに見合う。その分引いてあるのだということになると計算しますと六百六十七万九千円ぐらいですか、それぐらいになるようにすけれども、これがもう一度税率としてほかの人に振り当てられているという感じになるんですが、それはそういうふうな理解でいいんでしうか。

○ 保健課長 (網島憲治君)

お答えいたします。第一点の課税の配分額でございますけれども、これは地方税法では

基準額を一応示されておりまして。応能、応益五〇、五〇という線を一応示されておりまして。課税の方法論とするといふところあるわけでございますけれども、一応応能、応益五〇という基準を示しております。その五〇、五〇をあまり大きくかえない場合、その地域の特性によりまして現在認容されておるものでございます。最初に申し上げましたけれども

昭和三十九年税に改正するときの事項からいたしますと、保険料のときには均等割、いわゆる市民税の四百円を納めている人も所得割として課せられていたわけです。たとえば四百円掛ける、均等割が四百円でございますからそれに百分の幾らというものが課せられていた。今度税になる場合均等割の方は一切なくなつた。そういう関係でこういうような配分を取つたものでございます。

それから、百分の九十五でございますが、おおせのとおり一億三千五百四十四万四千円ということでございます。五、ろということになりますと大体六百六十何万かになるうかと思いますが、一応私どものほうで押えましたのは六百万が切り捨ての分、大体五十万乃至六十万程度は乗算の減というふうな数字を考えております。乗算の減と申しますのは、課税の段階で百円未満切り捨て、十円未満切り捨ての額でございます。そういうものを含めまして九五というふうに押えたわけでございます。以上でございます。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) ちよつと保健課長に伺つてみたいと思います。

第五条中「千六百八十円」を「二千六百十六円」に改めるということになっておりますが、これだけで三百八十六円の違いがあつて、もう一つここに「二千三百二十二円」を「二千七百六十三円」に改めるというふうになつておりますが、これだけでもつて四百四十一円の違いがあつて、私の聞きたいところは、所得税と、それから財産のものをぬいて一般のわれわれみたいの家で、五人家庭でもつて去年の税額と今年の税額とどのくらい違いがあるか。その点、それから被保険者が他町村におつても所得割というものが課せられるというのをもう一回説明していただきたいと思います。以上でございます。

○ 保健課長 (網島憲治君) 去年との額を具体的に持ち合はしておりませんので、今計算いたしますので、しばらくお待ちいただきたいと思ひます。

第二点の要旨がちよつとわかりませんので、もう一回お願いします。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) 被保険者の家族が他町村におつても所得割を課せることができるというのが私にはまだ頭に入りませんから、それをもう一回説明していただきたいと思っています。

○ 保健課長 (綱島憲治君) これは被保険者が他町村におつてということですが、それに所得割が課せられるということでございます。われわれ住民基本台帳を基本にいたしておりますので、ここに他町村におつてということがはつきり居住が他町村であればこれはかかりません。あくまでも住民基本台帳法に基づく登録をいたしまして、いわゆる住所が他町村にあるという場合は、こちらのほうでかけてあるとすればそれは現われるわけでございます。以上でございます。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) 簡単にいうと館山市に住民票がある場合に他町村におつての場合にかけることができません。だがしかし、住民票が向こうにいつた場合にかけられないということでしょう。その点どうもはつきりと説明がわからない。

○ 保健課長 (綱島憲治君) おおせのとおりでございます。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 最後に一つだけお聞きしておきますが、五万円で打ち切られる分の再配分というんですか、結局私は再配分という形になろうと思うんですが、これが計算では、課税の状況では所得割あるいは資産割に配分されるということではなくて、その分を全部所得割、資産割、均等割、平等割というふうなところにかかつていくんだ。こういう理解でよろしゅうございましょうか。

○ 保健課長 (綱島憲治君) おおせのとおりでございます。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 研究不足でわかつたようなわからないような、もちよつと聞きたいことがあるようですが、ひとまず了承しておきたいと思うんですが、ただ、もう五年前ですか配分額というものはそれが決定されてから

なるはずです。この辺でこの配分額について厚生省等において抜本的な改正案について考えているというようなお話しもありましたけれども、館山市は市としてこの配分額の割合についてもなおかつ検討をする必要があるのではないかと、いうような時期にきているような気がいたします。私も専門家でありませんからどこをどうするということではありませんが、やはり検討をしておしやる必要があるのではないかと。そういう気もいたしますので、ひとつ御検討をお願いをしたい。こういうふうに思います。終ります。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) もう一つ伺つてみたいと思います。市長さんに伺いますが、千葉県にある市の中で四市というものが一般財源から繰り出してないんですが、これはどうしてもこの保険税というものに対しましては、一般会計からは繰り出すわけにはいきませんか。この点伺つてみたいと思います。

○ 市長 (本間 譲君) 千葉県下の情勢を見ますと、二十一市のうち館山市の課税が十三番目ということですが、そうして安房郡市では五番目という高さといえますが、課税でございますが、一般会計の余裕があればもちろんそういう方法を取つて被保険者の負担の軽減をはかるのが一番いいわけでございますが、館山市の場合ですと本年度におきましては、なかなかそういうわけに参りませんで、先ほど課長から申し上げましたように、厚生省では三年前ですか抜本改正をするというように、そのねらいは市町村の負担の軽減をはかるということが主になつておるわけでございますが、いまだそれが実現されないということで非常に遺憾に思つておりますが、先だつて十三日の日に関東甲信静の保険課長会議がございまして、厚生省、県からこられました方たちに政府のやり方が手ぬるいから私も文句をいつたんですが、二カ年間には必ず社会保険と国民保険を含めた抜本的改正をして負担の軽減をはかる。こういうことをいわれたと私は思っておりますが、それが三年たちましてもまだそういうことが伺われないわけで、非常に期待はずれて残念であるわけであります、そのとき私は申し上げたんですが、一体厚生大臣は昼寝でもしているのか。おれに厚生大臣やらせれ

は失礼な事ですが一年ぐらいでこんなものは片づける。片づけなければならぬ。それほど差し迫つた問題であるからと申し上げたんですが、いずれにいたしましても、館山市の場合はいろいろ本年も新しい事業等によつて金を形はかわつてもやはり市民のためにいろいろの施策をやつておるわけでございまして、本年は、来年はわかりませんけれども、遺憾ながら一般会計からはちよつと無理のようですから繰り入れもできなかつた。こういうわけでございますから御了承願ひたいと思います。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) 市長さんのおつしやることよくわかりましたが、だがしかし、健康保険も市長さんが当初予算にあつた小学生から中学生までのランドセルとかいうものを無償でやるという問題と同じだと思ふんです。要するに子供のない方たちもある。館山市民の中には会社あたりの社会保険に入つておる方は健康保険がないから当然いろいろの問題があると思いますが、小学校生徒に対しての軽減をしたんですから、この保険ももう少し一般会計から私は協力していただきたい。そうしたならば、むしろ小学生、中学生より以上に市民のみなさんが考えておるのではないかと私は考えますが、それと同時に前年度、本年度の具体的問題が出ませんでした、それが出てから私はもう一つ質問してみたいと思います。

○ 保健課長 (網島憲治君) 五人家庭で均等割で固定資産税のないものにつきましては、四十四年度一万七百二十二円、四十五年度一万三千九十三円、二千三百七十一円の値上りということになります。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) これだけの値上りがされておつて一般会計から繰り出した場合にどのぐらいのものがあつたら去年と同額ぐらいになりますか。この点を伺つてみたいと思います。なぜならば館山市では、千葉県では四市が一銭も一般会計から出してないんです。あとの市はそれ相当の額を出してある。繰り出しをしておるといふことなんです。だから市長さんのおつしやつたことよくわかつてゐるんですが、いまひとつ聞きたいことは、この国民健康保険に対し

ては運営委員会という諮問機関が設けられていると思う。その諮問機関の市長さんに対しての答申はどうなつておいでになりますか。やりましたか。やりませんか。この点伺つてみたいと思います。答申の内容を聞かしていただきたいと思ひます。

○保健課長 (網島憲治君) 答申という形で現在まで出されておりませんが、当日の会議ではやはりそのような要望がございました。

○二九番 (鈴木市蔵君) そのような要望というかどうかという要望ですか。

○保健課長 (網島憲治君) 一般会計から繰り入れをしてくれという要望書の形では現在出ておりません。会議の内容についてはそのような方向についての要望的なものは出されております。

○市長 (本間 譲君) この間、国保の運営委員会におきましては、去年もそうでしたが副議長の小沢議員さんから非常に御熱心なことにしましては、御要望があつたわけでございますが、そういうふうに参りませんで残念でございますが、今年は医療費が値上げになつたというようなこともございますから本年はそういう点も市民の方々も御了承と存じますので、一八%でひとつぜひ御了承いただきたい。こういう考え方でございますが、来年度におきまして、来年度のことは私はどうなるかわかりませんが、また考えていかれると存じますが、今年はそのことで御了承願ひたいと思ひます。

○二九番 (鈴木市蔵君) 今、市長さん来年度とおつしやつたんだが、関所が十一月にあるんですが、その関所を通り過ぎた場合には約束できますか。(笑聲) 関所を通り過ぎた場合には約束できますか。要するに一般会計から繰り出すという約束ができますか。この点ちよつと伺つてみたいと思ひます。

○市長 (本間 譲君) 今後私が再選された場合には約束できますか。こういう御質問ですか。それはそういう考え

方ではもちろんおりますが、本年としましては全国的に医療費が上つたわけですから、この点はおわかりのことと存じますが、なるべくそういうことでやつて参りたいと考えております。

○ 二九番 (鈴木市蔵君) 了解いたしました。

○ 議長 (西村真次君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第九、議案第五十二号簡易水道事業の給水区域の変更について、議案第五十三号館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十二号 簡易水道事業の給水区域の変更について

議案第五十三号 館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第十、議案第五十四号館山市署名登録条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十四号 館山市署名登録条例の制定について

○議長（西村真次君） 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○議長（西村真次君） おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（西村真次君） 日程第十一、議案第五十五号 館山市交通遺児手当支給条例の制定についてを議題といたします。

質 疑 応 答

○ 一八番 (安西益男君) この条例について少し、お伺いしたいと思いますが、一昨日の福祉事務所長さんの御説明によりますと、小学校就学前の児童が対象である。現在わかっている範囲では六世帯というんですか、六名が対象である。十万円計上されている。こういうことでございますが、この手当制度の目的はここにありますように、遺児に将来への希望を与え、健全な育成をはかることを目的とする。ここにもありますように、私はむしろ小学校、中学校ことさらにこういった年代こそがこの趣旨であり、また目的ではなからうか、かように存じておるわけでございます。また県内におきましても千葉市をはじめ数カ所実施されておるわけでございますが、ほとんどが中学校まで、また中学校は増額されてこの児童に対する手当が支給されておるというのが現状のこのようでございます。確かに当市におきましては、交通対策、指導の問題、さらには特に父兄負担の軽減これはもう全国的に非常に新たに反響を得ておるところまでできておるわけでございます。しかしながらこうした小、中学校を対象にしても限られた少数の人である。当局におきましては、父兄負担の軽減という面からむしろこういった人はそれによつて適用するというお考えがあるかもしれません。しかしこれはそういった一般家庭の対象と大きく違ったこれから先ほども申し上げましたように、大きく人間形成をしていく最も重要な年代という面、また将来に本当に子供に希望を持つておられる。そういう家庭に対してやはりこういった未完成といえるような年代ではなからうか。こういうふうに考えられるわけですが、そういうことで、先般青年会議所の発足のおりにも児童に対する遺児手当の制度をという要望があつた。こういうようにも聞いて

ある。またその青年会議所におきます要望も当然小学校、中学校を対象にしての要望であるわけです。こういうふう
に存ずるわけでございます。したがって、現在館山市におきまして、仮りに小学校、中学校までの範囲を対象とし
たならば何名ぐらいになるかというようなことをまず伺いして、また教育委員会等におきましても、このことにつ
きましてどういふふうに検討され、またこういつた世帯に対してどんな状況を把握しているかという点等もお聞かせ願
いたい。こう思うわけです。

○ 福祉事務所長 (斉藤武男君) お答え申し上げます。ただいまの第一点の就学前の対象ということでございますが
お話しのごさいますように、館山市におきましては、いろいろの交通対策を実施してあるわけでございまして、住民福
祉の向上ということは義務よりも私ども本来に悲願としてあるわけでございまして、お話しのように就学前というこ
とは館山市独自のものでございまして、就学した場合にはいわゆるこれも全国例がなかつたわけでございすけれども、
公費負担ということで実施しておりますので、そういうような独特の条例をお願いしたわけでございます。

それから、第二点の対象児の小、中学校の関係でございますが、これは警察のいわゆる事故段階でございすけれど
も、事故がありまして、二十四時間以内に死亡した場合にはわかるわけでございますが、それ以後の死亡の場合には警
察の段階でもわからないわけでございます。それで、先般この条例の立案の段階におきましていろいろの面から調査し
たわけでございますが、幼稚園、保育園の関係ではお話しのように六名の方がおつたわけでございます。さらに小学校
中学校の関係におきましては、二十二名の方がこれに該当するというような状況でございす。以上でございます。

○ 一八番 (安西益男君) 教育長さんに教育委員会等ではどのように考えておられるか。

○ 教育長 (高木 正君) 小、中学校は学用品の無償交付とか、準要保護家庭、保護家庭この子供たちにはいろいろ
の対策を講じてあるわけでございますが、館山市の場合には育英資金制度もございすので、交通遺児に関してはその

運用に対して十分考慮していただくように要望していききたいと思ひます。なお、それ以上のことについては今後調査、検討していきたいと思つております。

○ 一八番 (安西益男君) 小学校、中学校を除くという一つの根拠を私は知りたいたう思うわけです。今、確かに公費負担でいろいろの抜本的な施策が講じられてゐる。これは当然であります。これは大きく喜ばれてゐるといふことも十分知つております。しかしながら、中学校まで入れましても大体二十二名といふことからするならば、一般児童並みに考えられるといふことでなく、一般家庭の片すみに置かれてゐるそういう状況の方々に、また先ほど申し上げましたように、他市におきましては、小学校まして中学校は増額されて最も重視されてゐるといふ点からするならば、今までそういった抜本的な施策の中にこういつた実情に合つた施策をひとつ十分検討していただきたい。このように思ひます。市長さんに御意向をお伺ひしたいと思ひます。

○ 市長 (本間 譲君) 安西議員さんのお話しは一応ごもつともと考えておりますが、まあ本年は学用品を公費負担というようなことでやりました関係もあるので、まず小学校に入るまで手当を出すといふことですが、私はむしろ中学校とか、小学校とか入るまでの間の助成をもう少しふやしたほうがいいんではないかと自分では考えておりますが、やはり館山の財政を考えましたときに、現在の程度でお願いいたしたい。ちよつと安西議員さんの考えと私の考え食い違ひがございます点もそこを私は考えてゐるわけでございますが、とにかく幼児から小学校に入るまでといふのはなかなか金もかかりますし、千円ではまことに僅少ではないかと考えてゐるわけですが、なかなか財政力にもよりませんが、しかしそれだけでも見てくれるかという精神的な点をあれて今年は千円。小、中学校までのばすといふことは今のところは考えずにやはり学用品でもつていくほうがいいんではないか。こういうふうに考えてゐるわけで、安西議員さんの考えにちよつとそえませんが、私はそういう考えでこの問題を取り組んでゐるわけでございましてよろしくお願

したいと思ひます。

○ 一八番 (安西益男君)

ただいま市長さんから財政的な面もある。さらに幼稚園までは非常に金がかかるというお話がございましたが、これは金のかかることのほうは小学校、中学校のほうが当然かかると思ひまして、また財政的というお話も考慮しなければならぬ。この点十分考えるわけでございますが、総額にしておそらく中学校までにしても四十万前後、一年間を通じて額が非常に多い、少ないということなくて、それぐらいの親心を持つていただきたい。先ほどもありましたように、全般的に全国的に見ましてもこの制度がほとんど中学校までであるという点からするならば、どうしてもこの制度の目的そのものに、また健全の面からするならば、ぜひとも中学校までの支給を十分さらに御検討願つてその方向に進んでいただきたい。このように切望いたしまして、私は終わります。

○ 一九番

(島野茂樹郎君)

市長さんに考え方を伺ひをしておきたいと思ひます。

私も、この交通遺児手当支給条例が提案されました、これについては本當にいいことだというふうに考えております。ただ、よく考えて見ますと、交通事故で親がなくなるあるいは病気でなくなる、その他の災害でなくなる。こういうようなことを考えた場合になくなられた方はそれぞれ差はあるにしても残された家族といひますか、この置かれる立場というものは交通事故でなくなつたから、あるいは病気でなくなつたからということとそこに一体差があるのかどうか、やはり残された人の考え方なり、生活の実態というものはどういふことになつた方をして同じではないだろうか。そうだとするならば、交通事故でなくなつた遺児だけにこういう制度を適用してその他の人たちはそのままはおつておいていいのか。そういう疑問が実は私あるわけですが、その点については市長さんどんなふうにお考えになつていいのか。ひとつお聞かせいただきたいと思ひわけです。

○ 市長 (本間 譲君)

この問題につきましては、この条例を作成する時点におきましていろいろ論議があつたわけ

でございますが、島野議員のおつしやることも大きく考えて見たわけでございますが、今、交通問題というのは一番大きく考えなくてはならないということで、今後においてはひとつ予算とにらみ合わせて考慮しようではないか。しかし今回は交通遺児に限つてということでもやろうということでこの条例を制定したわけでございまして、決してそのことをひとつとも考えないわけではない。大いに考えていろいろ論議いたしました、来年度あたりにもできればそういう方も含んでやつたほうがいいと私は考えておるわけでございます。交通でなくなつた人は、むしろそういつては失礼でございすけれども、相当の補償金も一時は入ります。ただ病気で死んだ人は保険にかかつておれば保険料がもらえるんですが、何にもかかつてなければ全く収入もとだえるということで家族の方が非常にたいへんなわけでございますが、本年度はこれで御了承をいただきまして、来年度におきまして大いに考慮してそれを十分考えたのちにこれができたわけでございますから、来年度あたりはできればそのようにいたしたいと考えておりますから御了承願います。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) わかりました。ぜひただいまの市長さんの御答弁なるべく早い機会に実行をしていただきたいことを要望してこの点は了承いたします。

○ 九番 (三幣 勇君) 条例の解釈の仕方を一点だけ伺いたします。

第八条の受給資格の消滅の中の三項「遺児が養子になつた時」という項がありますが、二条の四項の保護者の定義の中の当該遺児の父もしくは母以外の者で遺児を現に養育する者。この保護者が養子になつたときに受給資格が消滅するかどうか。この一点お伺いします。

○ 福祉事務所長 (斉藤武男君) 現に養育ということでございますので、当然保護者になるわけでございます。

○ 九番 (三幣 勇君) その保護者が第八条の三項の遺児が養子になつたとき、その保護者がその遺児を養子にしたときはどういふようになりますか。

○ 福祉事務所長（斉藤武男君） 正式に養子縁組をいたしますれば、保護者になるわけでございます。

○ 九番（三幣 勇君） 保護者になるというのではなく、現在その下の当該遺児の父もしくは母以外の者で遺児を現に養育する者。遺児のおとうさん、おかあさんでないという方、他人の方が保護者で現にあるわけです。その保護者がこの遺児を養子にしたときに受給資格が消滅するかどうかということです。第八条との関連ですが。

○ 議長（西村真次君） 暫時休憩いたします。

午前十 時五十八分

休 憩

午前十一時 十五分

再 開

○ 議長（西村真次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○ 福祉事務所長（斉藤武男君） どうも失礼いたしました。先ほど御質問の三幣議員さんの二条と八条の關係でございますが、父、母以外の方が現に保育している場合の關係でございますが、その關係におきまして八条の三項の遺児が養子になつた場合でございますが、この場合には戸籍上におきましては、正式に父母が生ずるわけでございますので、この受給の資格が消滅するわけでございます。いろいろ、交通事故にもケースバイケースがございます、状態がいろいろあるわけでございますので、その規則の段階におきまして、たとえて申し上げますと、現に養育している者がその遺児を引き取つてやつたような場合、規則の段階の運用におきまして考慮して参りたいと思つてございます。

○ 九番（三幣 勇君） 所長の説明でよく解釈の仕方はわかりましたが、市の条例ですからこういうふうに解釈の仕方ではいろいろ考えるべきではなくて、用語の不備というのが少しあるようですが、その点今後注意していただきたいと

思います。

○ 五番 (藤田益治君) 一、二点お伺いしたいと思います。

この交通遺児の第二条の定義でございしますが、交通遺児の範囲でございしますが、いわゆるこの範囲でいきますと、道路法にいう交通遺児の範囲、むしろ自動車をしていと思っていますけれども、また路面電車、電車または汽車こうありますが、交通遺児という解釈、考え方が海上交通もありはしないか、または空のほうの交通も考えられるのではないから路面電車あたりは年々都市の過密化によつて減少しつつある傾向にある。さらにこれから上昇しようとしている形の上からはフェリーポートあたりの事故も非常に急増している。この点でフェリーポートの事故の場合、同じ車の事故であつても道路法に適用にならない。同じ自動車であつて事故が発生した場合、同じ状態でありますが、この点において交通遺児の範囲を将来どの程度まで広げていくお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

○ 市長 (本間 謙君) この点につきましては、いろいろこれをつくるときに意見があつたんですが、これは飛行機ですか、あるいはヘリコプターあるいはそういうようなものと船等の海上の問題等は別に今検討してやろうというような方針でございしますが、大体今検討しております、できれば九月の市会にそいつたものを含めて、海上と航空を含めたものを今検討しております。これができましたらば九月の市会で御審議を願いたい。この問題についてはなかなか容易でないと思いますが、現在陸上の場合には保険会社にやつてもらつておりますが、昨年あたりは保険会社も赤字で大きな問題が起ころうといへんですから、館山市でやり得るならば館山市だけでやる。館山市だけでやつていかれないような情勢でありましたらば、今の安房郡市広域行政連絡協議会ですか、そのほうの事業として共同で始めたらどうか。いずれにしても、現在は基本的なものを館山市でつくるように一応進めておりますから、そういうことで御了承願いたいと思います。

○ 五番 (藤田益治君) 早急のうちにその形をつくつていただきたい。要望いたしましたして終ります。

○ 議長 (西村真次君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第十二、議案第五十六号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十六号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の制定について

質 疑 応 答

○ 二六番 (秋山六三郎君) この条例はすでに完成間近にひかえておる豊房育成牧場の問題でございます。この中に第九条に出ております一カ月の最高限度の委託料を六千五百円と押えておる。しかし説明のときに大体現時点においては月六千円で預託していきたい。こういうふうな御説明であつたように記憶しておりますが、農産課長さんにお伺いたいわけでございますが、この条例からいきますと、満五カ月を越えた牛ということでございますので、結局は半年たつた牛ということになるわけでございます。それから一カ年を預かる。こういうことでございますが、現在の九とえて申しますと、ホルスタイン種で六カ月の牛の価格が牝牛でどのぐらいしているかということをやまず頭に入れなければならぬ。そうして月千円と申しますと年七万二千円の預託料を払わなければならない。そのときの大体十八カ月になつた牛がどのぐらいの価値になるのか。農家としてはこの育成牧場に預託するためにどのような利益が生まれてくるのかという点についてひとつお考えを承りたいと存するわけでございます。

○ 農産課長 (石井 謀君) お答え申し上げます。生後六カ月牛が現在どのぐらいの価格であるかということが一点のようでございますが、御承知のようにホルスタインは価格の差が非常に多いわけでございます。普通申し上げております平の純粋、平純でございますが、現在牛の価格が非常に安くなつておりますが、私どもの聞いております範囲内では五万円乃至六万円程度こういうふうに聞いております。それが一年間経過したのちにどの程度の価格になるかということでございますが、これは一カ月に私どもの計算では飼育料といまして実際の六千円程度かかるわけでございます。したがって、この牛が一年過ぎた場合には約七万二千円、この程度の飼育費がかかりますので、十二、三万

の価値が出るわけでございますが、その程度の価格には売却できるといふふうに私も考えておるわけでございます。

○ 二六番 (秋山六三郎君)

ただいま御答弁のありましたように、六カ月のホルスタインの平純で大体五万五千円か

ら六万円程度に私思っております。これは私も一応調べて見ましたところがそれぐらいでございます。しかしこれに対して七万二千円の預託料を払つて、それからこの原価に委託料だけを加えたものが一年たつた後の牛の価格だとすればこの牛を委託して育てても結局はそこから利益が生まれてこない。もし自宅においてこれを自分の手で直接一カ年間育てた場合には、どのぐらいの育成費がかかるかということを考えて参りますと、これは私よりも実際に酪農のほうに現在たずさわつてゐる方のほうがなお詳しいであろうと思いますが、私の考えでは自分でやつてゐる場合には、六千円はかからないで育てていくことができます。こういうふうに思っております。そして一年間育てていくためにある一つのそれ以内で育てていく。そして売る価格がそれぐらいになるから、そこに多少の利益が生まれてくる。豊房育成牧場をつくるという市長の構想は館山市の酪農をこれによつてできるだけ有利に導いて酪農を育成していく。こういうような精神から生まれてゐるものである。こういうふうに理解しておるわけでございます。ただいまこの方法で参りますと、一カ年たつても実際の利益は生まれてないということがいえるわけでございます。ちやうど育成牧場から出たときに種つけの適令期になつてゐる。現在種つけしてそれが分べん間近のはらみ牛という場合、その場合におきましてもその値段が十五万ぐらいが相場と考へております。あるいは私の考え方多少の差があると考へておりますが、大体そういうものであると考へられますが、この育成牧場に預託したことによつていい牛をつくり、そして酪農家がこれによつて利益を得たということによつてはじめて育成牧場をつくつた。あるいは預託した本当の意義が生まれてくるというふうに思ひわけでございます。

私は結論から申し上げますと、六千五百円を最高限度にしておるけれども、本年度は六千円ということでのちほど出

てくるでありましよう補正予算のほうにも一頭六千円で収入を見込んでいます。どうもこれでは預託をしてもそこから利益があまり生まれてこない。せいぜいいえ健康な牛が出てくる。しかし価格の上において、金銭の上においては利益がないということがいえるわけでございますが、市がやはり一定の牧場をつくつてやつておる場合には、そんなに金がかからない。健康な牛もできる。市がつくる場合、市はある程度ここに投資をしても館山市の酪農をはかつていく。こういうことにならなくてはいいんじゃないか。こういうふうに考えますが、その点についてのお考えはいかがですか。

○ 市長 (本間 譲君) 秋山議員さんのお話しはいわゆる悲観的ですね。私からいわせると牛も御承知のようにピンからキリまでありまして、一匹五百万もする牛もありますし、十万円も五万円も三万円もいろいろあるわけです。

とにかく育成牧場は農林省、県が指定して大部分が国、県の助成でその指示によつてつまりりつばな牛を育てようというところで獣医とかそれに管理者をそえて、つまり合理的な育成をするというわけですから、牛を普通にかうよりはよほどいい牛ができることを確信しておるわけでございます。ですから、家庭でかつたほうは安いといえますけれども、家庭でかうことは非常に手間をくう。そのために一人も二人もかかつていなければならぬ面もありますし、あそこに預けておけば獣医もいるし、栄養の面もあらゆる面で適正な管理が行なわれて理想的な飼育ができる。こういうために約一億円近い金をかけてあそこに始まつたわけでありますが、ですから、秋山さんのお考えも一応そういう考えもないことではないでしようけれども、とにかく少くとも現在の飼育より進んだ模範的、指導的の飼育法を実施して、そうして他の酪農業者の模範的指導をしようというのも大きなねらいであるわけでありますから、必ずしもそこにやつたためにちつとも利益がない。つまらない牛を持つてくればもつと安くなるかもしれないが、今は優良な牛をかつて値をよく売つて利益をあげようということをやつておりますから、少なくとも個人の家で牛をかうのと違つて給食センターではな

いけれども、ある一定のカロリーと一定の運動をさせて一定の健康管理ですか、飼育管理そういうものも少なくとも理想に近いことでやるというのが農林省の方針、県の方針でもございますし、そういう意味からして房州は昔から第二の北海道といわれるぐらいに牛をかつて有名なところでございますから、よりいりつばな牛を育てて輸出もするし、たくさん、乳の出る牛を育成しようということでございますから、秋山さんのように私にいわせれば悲観論のように考えずに、向上するということを楽しみに御協力、御指導を願いたいと思う次第でございます。

○ 二六番 (秋山六三郎君) ただいま市長さんの御答弁の中に牛はピンからキリまであるということでございますが、

それはそのとおりでございます。しかし、先ほど農産課長からの答弁、私の聞いております答弁も大体房州、あるいは房州というよりも館山と申しても、房州と申しても同じであります。平純というのは高等登録を取らない俗にいうホルスタイン種でございます。本当はホルスタイン種でございます。この相場が大体さつき申し上げましたような価格である。そしてそれに年間七万二千円の飼育料を払つてそのときの価値というものは、大体ちようど手一ぱいぐらいの価値しかない。それでは酪農の真の育成に果してなるかどうかというところに私の質問の要点があるわけでございます。

私、きよう調べたところによりますと、栃木県の大里牧場というのがございます。栃木県の酪農農業協同組合の経営のもとにやつておる育成牧場がございますが、ここでは育成料が一日百二十円ということでございます。昭和四十四年度までは一日百円でございました。これは私くらゐ前に電話で聞き合はしたばかりでございますので間違ひございません。栃木県の大里育成牧場では一日百二十円で育成できる。百二十円といえますと三千六百円でございます。ここにやはりまだ検討すべき余地が残されてはいやしないかということでございます。栃木県で一日百二十円月三千六百円で育成できるのに館山市ではそれが六千円でなければできないというところに私の一致した意見がそこにあるわけでございます。

○ 市長 (本間 譲君) 秋山さんのお話しは、つまり委託料が高いんではないか、よそに比べて、そういうことでは

ないかと思いますが、栃木県のほうは調べませんからございませんけれども、やはりその状況等によつて、その飼育の方法によつてももちろん違ひでしようけれども、そんなに倍なんかという開きが普通にやつてないはずではないかと思ひますが、その点はよくこちらかも検討しましょうけれども、一応畜産家の方にもそういう話は伝えてございすし、安いに越したことはないでしょうが、たとえばその牧場はいつ始めたか知りませんが、あげたいけれどもあげられない。こういう要望とか何とかがあつて、赤字だか黒字だか知りませんが、その事情もわかりませんが、こちらのほうでは現在いろいろの飼料の関係、管理費もかかりますし、そういう関係でそういうふうに六千五百円ですか定められたわけですが、とにかくこちらはそんなことをいつては失礼でございすますが、こちらは別に事業会社でもございせんし、市も国の補助金でやつてガラス張りで飼育しているわけでございすから、実際にやつて見てそんなにかからないということになれば、今の秋山さんのようなふうに引き下げももちろんしなくてはいけないと思ひます。今の価格はあるいは国のほうの指導やなんかによつていろいろ検討の結果出た数字でございすから、一応八月から始まることになつておりますからやつて見まして、そうしてそんなにかからないということになれば、引き下げをいたして条例を改正してもいいと思ひますが、大体畜産家のほうでも館山市内の方々は了承されておるわけでございすからなるべく安く、できるだけ安い牛を、りつばな牛を育ててあげたい。こういうふうに思つておりますから、いましばらく実情を御検討をお願いしたい。また御報告申し上げたいと思ひます。よろしく。

○ 二六番 (秋山六三郎君) 市長さんの御答弁で大体市の方針そういうようなものもよくわかりますし、また私も酪農のことにつきましては、かつてその道にたずさわつたこともございすので、よくそれらの点については理解することとができるのでございすますが、たとえば引き下げる場合でも、条例でも六千五百円の範囲内においてということになつておりますから、条例を改正しないでも場合によつては可能である。私はこういうふうに考へておるわけでございす

が、実は、豊房の育成牧場というものは、非常に大きな資金をかけてつくつた牧場でありますので、館山であれをつくつてよかつたなというそういう声が酪農家の中から大きくあがつてくるということを期待してゐるわけでございます。

そういう意味合いからつくつた当市においてあまり高い。つまりあまり高いというよりそれだけかかるんだということもありませんが、できるだけ酪農事業というものを育成していくというたてまえから、できるだけこういう育成料を安くして、そして館山市の酪農振興に対する施策が非常によかつたなという一般農民の間からいわれる姿に持つていきたいというのが私の趣旨でございます。そういうことでありますので、私もしばらくこの仕事から遠ざかつておりましたので、きょうここにくる前に大里牧場に電話で連絡いたしましたので聞いておわけございまして、現実にかういふふうにてやつてゐる。栃木県の大里牧場はそんなに古い歴史を持つておりません。はつきりしたことはわかりませんが、十年そこらではないかと思ひます。ここでは房州からこの地方に牛が売られておつて、そこで育成したりなんかしたりしておりますし、かつて安房畜協のなくなつた金木組合長は房州からも何頭か牛を大里牧場に依頼して育成してもらつた実例もあるかと存じますが、そういう点も考えまして、館山市の育成牧場が他県のそういう牧場に負けないような、施設においても管理においても、あるいは牛の育成という究極の目的においても他県のそういう施設に負けないような実績をあげていただきたいというのが私の質問の一番主眼でございます。

市長さんの御答弁によりまして、一応現在における市当局の考えというものは了解いたしましたけれども、なお今後一そうこの点に御調査等をなさいますして、ただ県庁などばかりでなく実際のそういうところを調査して、そして検討を加えて、さらに改善すべき余地があるかと思ひますので、それらの点を要望いたしますして、私の質問を終わります。

○ 二五番 (田村源治郎君)

第四条の「牧場は常に良好な状態において管理し、その設置目的に応じて最も効率的に」

この説明と、それから八条の「その他牧場の管理運営上支障を生じたとき」この説明と、「市の責に帰すべき事由」市の責の説明と、それからもう一点は、これに対する人員管理、その人員が何名と書かなかつた理由、それから仮にいうならば、場長なる者が資格がなければならぬ。獣医が認め、獣医でない資格者が牛を飼育する。獣医が認めたときはいいけれども、獣医でない者が、しろうとがやつていかなる牛がでかあがるか。それらの点においてやつぱりこれだけの設置と管理の条例であるから場長とか資格を持つた者を、また人員を何名で牧場を管理するのか。それらのものを書かなかつた理由を説明してもらいたい。

○ 農産課長 (石井 謙君) お答え申し上げます。第四条の件でございますが、「牧場は常に良好な状態において管理し、その設置目的に応じて最も効率的に運用しなければならない。」いつも牧場は管理をよくしてその設置目的に合ったような牧場でなければならぬということです。

それから、八条の五項でございますが、「その他牧場の管理運営上支障を生じたとき。」これは許可の取り消しの内容でございますが、災害、その他によつて牧場が使用できなくなつた。あるいは牧場の拡張とか工事等を実施いたしました、収容が不能になつたとか、いろいろ牧場利用許可の取り消しがあるわけでございますが、そういう場合においてこの項目以外にそういうような管理、運営上支障をきたしたときに牧場の使用許可を取り消すという字句でございます。それから、十条の事故牛の補償でございますが、「市の責に帰すべき事由により乳牛が死亡または廃用になつたときは、五万円を限度として補償することができる。」ということでございますが、これは管理の責任におきまして事故牛を出した場合におきましての条項でございます。なお、管理する場合に獣医あるいはまた場長等の条例がこの中に織り込んで、ないではないかという御質問でございますが、これは規則等によりまして管理の關係あるいは運営の關係でございますので、そういうような内容で処理いたしたいというふうに考えております。

○ 二五番 (田村源治郎君) 常に良好な状態とは、最も効率的。文章ではかなりつばなことは書いてある四条に。

これに対する受け取り方、獣医は完全に見て獣医でない資格者が常に良好な状態におかれているのか。良好な状態とは条文にあるけれども、獣医がいい牛だから預かつて、しろうとが預かつて効率的に牛ができるか。実質的に運用する条例でなければならぬ。

十条の責に帰すべき、あぶなくて牛を扱わせられるか。安心して市民の牛を預かるという設置、管理条例であるから明確にしておかなければ条例の価値がない。設置の価値がない条例をこしらえても、その点どう考えるか。

それから、その他牧場の管理運営上支障を生じたとき、前の一、二、三、四までの説明をして、その他牧場の管理運営上の支障を生じたときの説明は不完全だ。もし牛に対して自分たちの仲間で伝染病なり、伝染病以外のものが出た場合がある。生きものであるから伝染病以外のものが生じたときに管理上から別々に牛小屋を調べて、その支障を生じたときの管理上の問題ではないかと思う。さっきの説明は違うんじゃないかと思うけれどもその点について

それから、運営上において何人使うかわからない。資格者なら資格者、獣医でも場長でも一人でも書いて、これを見るとだが、何人で、条例も設置文だけであつてあとの内容は不明にされてある。これでは何の価値もない。管理条例において運営しなくてはならないから管理人とか、資格者一名とかいうものを第十二条に加えべきが当然ではなからうか、その点もう一回はつきりしていただきたいんです。

○ 市長 (本間 護君) 田村議員さんの御質問非常にけっこうと思いますが、これは条文は条文でちゃんとしていないくちはいけませんけれども、常日頃の管理は条文にないことでいろいろやらなければならないこともあるかと思ひますが、日頃の心配のない管理をするということが一番私は大事だと思ひます。条文にはもちろん書くことは書かなくてはいけませんけれども、しかし実際に即して牛が良好な状態で育つていくような管理を指導して、その指導どおりにその

人がやつてくれなければ本当の成果は上らないと思います。

それから今、場長とか、いろいろお話しがございましたが、これにつきましては、今後これを施行する規則というものを別に定めまして、その中へ場長一名、それから助手を何名、獣医を何名こういうふうにその中へつくる予定でそれも大体方向は考えられておるわけですが、それを実施までにつくつて、この規則をまた議員のみなさまのほうにお送りして参考に供したい。こういうふうに考えておるわけでございますから、とにかくやることをちやんとやらせることが私は最も必要ではないか。それでなければ成果が上らない。そういうことで指導してやりたいと思います。田村議員さんのいろいろ御指摘の点はそのとおりで、こちらの方の落ちもあるかと思えますけれども、足りない点は規則によつて補つてやりたい。こういうふうに考えていますから、あまりひとつごとをいわずに、おえなかつたらそのときにひとつしめてください。一生懸命やらせますから。

○二〇番 (中村省吾君) 簡単なことで一点伺つておきたい。家畜共済に入つておるといことが条件でございますが、家畜共済についてよくわからないものですから簡単に御説明願いたいと思うんですが。たとえば家畜共済は牛が死んだとかそういう場合にあるということはわかりますが、病気の場合に獣医にかかつた場合に健康保険的になつておるのか。そういう常設的なことですが、そういう面でお伺いしたい。

○農産課長 (石井 謀君) 家畜共済につきましてお答え申し上げます。家畜共済は加入する場合にはうまや単位で加入するわけでございます。したがしまして、酪農家が五頭おつた場合には五頭がうまやごとそこに加入するということとでございます。その場合に九月一日が県の連合会の期日だそうでございますが、一年間加入するのだそうでございますが、そのときに評価をいたしまして、総合的な共済額が出るわけでございますが、そのうちでたとえば一頭死亡した場合、その牛の評価の加入する場合には三〇%から八〇%までが共済に加入できるわけでございますが、その際にたと

えは四〇%加入した場合に評価額が十万円とすると四万円の共済金に入るわけでございますが、それが全然皮が売れない。肉も売れない場合には全額共済金がかかるわけでございます。そのうちで十万円の評価の牛が四〇%加入して、一万円の肉が売れたといたしますと、十万円の一万円でございますから九〇%の損害でございますので、三万六千円の共済金が入ってくるということでございます。疾病等の場合におきましては、共済額の一一%までが診療の対象になるわけでございます。

○ 二〇番 (中村省吾君) 前段のことはよくわかりますが、今の疾病の問題ですが、いわゆる病氣と考えていいわけですね。平易にいつて、その場合に一一%を共済から支給する。こういうことですね。掛金額ではなくて共済金額の一一%ですかの、ということは家畜共済というものは牛ががぜをひいた。がぜをひいたというように病氣もあると思うんです。その場合に獣医さんにかかった。獣医さんに幾らか払わなければならぬ。そういう場合に家畜共済との関係はどうなっていく。その点をお聞きしているわけです。

○ 農産課長 (石井 謙君) ただいまの質問は疾病あるいは病氣、そういうような場合につきましては、共済金額の一一%までが払えるわけでございます。ただし、うまや単位になつております関係上、五頭の牛がおつた場合にその五頭分を一頭が全部使つてもさしつかえない。こういうことになつております。

○ 二〇番 (中村省吾君) わからないんですが、簡単に私申し上げておるんです。というのは家畜共済法をよく知らないからかもしれませんが、はつきり申し上げますが、家畜共済が事故があつた場合に先ほど課長がいわれたように四〇%共済金に入つて、その範囲内で全額支払う。それはわかる。ところが私なら私ががぜをひいた。病氣になつた場合に健康保険法によつて医者にかかる。人間なら。そういう場合に、牛の場合に家畜共済はそういう制度のものかということ。医者にかかるでしょう。獣医さんに。それが健康牛であつて何かけがをした。それは一週間治療すれば完全

にもとに直るといふこともある。かぜをひいた。それも獣医さんにかかつて治療を受ければ完全になつてしまつて何ともない。こういう病氣もある。その場合の家畜共済との関係はどうかという意味です。

○ 農産課長 (石井 謀君) その場合には当然共済でもつて支払われるわけでございます。

○ 二〇番 (中村省吾君) その場合に、支払われる場合に金額が支払われるのか。あるいはまた何%個人負担ということがあるかどうかということがまず一点。それから一つの例をあげて説明してもらいたいんですが、牛がかぜをひいたという場合に獣医さんにかかつて大体三日ぐらいの治療で直つたという場合にどのぐらいの治療費がかかるか。自己負担がどうなつてゐるか。具体例で説明してもらいたう。

○ 農産課長 (石井 謀君) こういう場合に点数制で行なつておりますが、点数で扱い金額が共済掛金の一一%をオーバーした場合には本人が負担します。一一%未満の場合には共済保険でそれを負担することになつております。なお、あとの点数の関係でございますが、實際的に医療費の問題については私にはよくわかつておりません。以上でございます。

○ 二〇番 (中村省吾君) 数字的にはちよつとわからないんですけれども、そうしますと、牛が病氣になつた場合、十萬の牛で四〇%入つて四万円、その一一%ですから四千四百円、四千四百円をオーバーした額については個人負担、それ以内ならば共済が払つてくれる。こう理解してよろしいわけですね。そうなると、獣医の関係ですが、ここに獣医を囑託として置くというわけですから、当然治療費は治療費として獣医に払わなければならぬと思ふ別途に。その場合の金が一%ということになりますと、そういう疾病の場合には共済から出る金は非常に少額だといふことがいえるわけですね。そういう点です。

○ 農産課長 (石井 謀君) ただいま申し上げたとおりでございます。非常に少ないわけでございますが、規定では

そういうような率になつております。

○ 二〇番 (中村省吾君) 以上で了解しますが、そういうことでございますので、今後この運営にあたつて私は非常に目的あるいは管理の条項でも示されておりますが、家畜共済というものに入らなければならないという一つの義務づけをされておる。ところがその家畜共済なるものが内容的に不満のある条項だ。したがつて、この育成牧場を管理する面において相当これらのものに対して将来考慮しなければならぬと思います。この点も十二分に検討して、健康牛のみ飼育していくということであつても、この医療費というものが非常に大きな比重になるのではなからうか。こういう点も考えられますので、今後十分これを考慮して運営していただきたい。このことを要望して終ります。

○ 議長 (西村真次君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

午前の会議はこれにて休憩いたします。午後は一時会議を開きます。

午後零時 七分 休 憩
午後一時二十八分 再 開

○ 議長 (西村真次君) 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第十三、議案第五十七号昭和四十五年度館山市一般会計補正予算第二号、議案第五十八号昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算第一号を一括議題といたします。

議案第五十七号 昭和四十五年度館山市一般会計補正予算(第二号)

議案第五十八号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

質 疑 応 答

○ 二〇番 (中村省吾君) 歳出のほうで御質問いたしたいと思ひます。

農林水産業費の中の十一節の需用費でございますが、先ほど条例のところでは若干御質問いたしましたことに關連

いたしますけれども、この需用費の中で医薬材料費三万八千円があるんですが、この医薬材料費というのは具体的にどのような内容のものか御説明願いたい。

○ 農産課長 (石井 謀君) 医薬材料費の品目につきましては、一応応急的な処置ができるような常備薬を獣医さんに選定していただきまして、それをもとにいたしました額でございます。

○ 二〇番 (中村省吾君) 医薬材料費というのは応急的という処置が、たとえば外傷とかそういうものは当然入ると思います。簡単な外傷程度のもものは。その他疾病的なものでこの医薬材料費が入るかどうか。

○ 農産課長 (石井 謀君) 医薬品の選定するときにお願いたしましたのは、外傷あるいはまた流感でない普通の感冒、二、三日で直る程度の薬等をお願いいたしまして、内容に織り込んでございます。

○ 二〇番 (中村省吾君) そこで、実は条例の中で家畜共済からどの程度支給されて、共済がどの程度の医療費を負担するかということまでよく知りたかつたわけです。そういう面から家畜共済というものをながめた場合に、牧場で六千円で飼育を預託を受ける。六千円の預託を受けて、先ほど秋山さんからも非常に金額というのがちよつと高いんではなからうかという意見も実はあつたわけです。しかし、これはいろいろ飼料、その他を検討しますと相当かかるということも私たちもわかります。内容を異にしてありますので、六千円が高い、安いということではなくして、現行の家畜共済を利用してもし預かつた牛が病気になるつたとして、そうしますと、その一〇％の範囲内ならばこれはいいとして、おそらく少し病気すれば一〇％オーバーしてくるんではないかということがたぶん懸念される。その場合にやはり預託者がこれを払わなければならないという点がどうも私は有料で六千円という金を取つてなおかつそれがかせをひいたそのほか何か病気になるたびに一〇％をオーバーすれば、これは二、三日間かかれば当然オーバーするのではないかと思います。そのために預託者から医療費を徴収して払わせるということになつて果していいのかどうかという問題で

す。というよりなことから始めてここに医療費というものが一応は盛つてある。そして二つの道の考え方がある。そういう医療費というものが預託者が払うのだということになれば、ここにその医療費はいらないという考え方がある。もう一步考えて六千円の預託料を取つてなおかつあの条例の精神で善良な管理をしていくということになれば、そのよつてきた病氣等は管理不行き届きということをいわれてもしようがないと思う。病氣が出た原因はあなた方飼育者にあるのではないかといわれてどう判断するか。そういうことからいうならば、ある程度の軽い病氣、その他は牧場でその負担をしてもいいんではないかという氣もするわけです。そういう点に対する御検討、今までの考え方、もう少し詳しく御説明願いたい。

○ 農産課長 (石井 謀君) 先ほどのことが足りませんでした、一般に共済の利用状況等を共済組合で聞いて見ますと、大体大きな疾病、病氣をした場合については別でございますが、普通の場合ですと三日乃至四日程度のかぜをひいたというよりな場合におきましては、大体三千円乃至四千円であがつているというところで、この医療費につきましては、共済でもつて大体間に合つていくんだというような程度でございます。そういうようなことでございますので、その医療費の問題を一応畜産奨励委員会等で論議したわけでございますが、これは当然畜主が負担すべきが適当じやないかというような意見が非常に多いというようなことで、医療費につきましては、畜主負担というふうに考えておるわけでございます。以上。

○ 二〇番 (中村省吾君) 専門的な方たちがそういうことがいいという結論だといわれれば私もそのことは了承いたします。しかしただそこで嘱託の獣医を置くというよりなことも出ておりますが、この病氣になつた場合に嘱託医に治療させるのだろりと思ひます。というのは共済もまた獣医もあると思ひます。一体どつちをどう使うかという問題、その場合に嘱託医と予定された獣医さんが共済の関係等はどつちなつてゐるか。それから将来病氣の治療にあたる場合に嘱

託医に治療させるのか。あるいはまた共済の指定する獣医に診療させるのか。こういう点も含めて一点。それからいわゆる条例にあるような資格牛、いろいろ伝染病予防とか一切のことをされ、獣医が健康と認めるものを扱う。こういうものが条例できまつたわけです。そういうふうにきまつておるんですけれども、その預託された期間に予防注射なり、そういうことが起きてくる。そういうことが実施される場合にその負担はどうなるか。費用はどうなるか。その二点に上。

○ 農産課長 (石井 謀君) 牛が疾病の場合に嘱託によつてこれを治療あるいはまた処置するか。あるいは共済医に依存するかの問題でございますが、これは原則的に共済医にお願いして点数によつてやるというように考え方でございます。ただし、応急的な場合については嘱託医にお願いするというところでございますが、それから第二点のその間における予防注射そういうようなものについてでございますが、牛の場合には義務づけられておりますのは結核、ブルセラの二つでございますが、この二つについてはもし預託を受ける前に受けておらなかつた場合には、そのときに実費を畜主から負担いただきまして注射をするというように考え方でございます。以上でございます。

○ 二〇番 (中村省吾君) もう少し詳しくお聞きしたいんですが、預託する前にそういう法定の病気ですか、そういう予防は当然してあるというのが一つの条件になつておりますね。そういうことはしてあるのだけれども、預かつておる期間中にそういうことをあらためて再度しなければならぬという事象が起きないと思ふんです。そういう場合の費用の状況はどうなるかということをお聞きしてゐるわけです。

それから、応急の場合に嘱託医に診療させることもあるということなんですが、先ほど私質問したのは、嘱託医とそれから共済の医師ですか、全然違うということですね。その嘱託医に治療、診療してもらつた場合に共済との関係は全然同じに処理されるのか治療費は。そのことが一点あるわけです。

○ 農産課長 (石井 謀君) 囑託医の場合でございますが、共済の獣医を囑託医にお願いするか、あるいはまた別個

の獣医をお願いするかということがはつきり結論が出ておりませんが、たとえば別であつてもこれは共済を主にいたしまして、もちろん家畜共済の範囲内において医療費は支払うということでございます。それから臨時的な注射等につきましては、これはあくまでも畜主負担というふうに考えております。

○ 二〇番 (中村省吾君) わかりました。そうしますと病氣、その他獣医にかかるものは一切が畜主負担だ。一語に尽きるわけです。そうならここに医薬材料というものは必要ないと思うんです。そこまで徹底したお考えをするならばなまじつかしろうと治療をする必要はない。全部獣医に見せてもらつて、一切のしろうと治療はかえつてなま兵法けのもとになると思う。この三万八千円はいらないと思う。それだとするならば。その点が少しおかしいんではないか。

医薬材料費というものを備えておるならば、もう少し責任を持つた治療体制がほしいと思う。なまはんかの三万八千円の医薬品を備えて確かに応急処置ができるということになりましようが、現実的には意味がない。それらの点でそこまで私は家畜共済一本に頼つて、病氣になれば私どもの管理上の責任ではございませんといきれるものであるかどうか。これが逆にいつてこういうケースも出てくると思う。預けてはいるけれどもばかにかぜばかりひいて仕方がない。おれがかつておればこんなことはない。なぜあんなにかぜをひかせるかということが起きないか。そういうことが起きたときに、その都度はじめから条例上はそういうことは管理上の責任ではございません。確かに管理の上ではりつばな条文ができてゐる。できてはゐる。しかしながら、その条文には私どもの責任ではございません。あくまでもその病氣の費用はおたくのほうで持ちなさい。現実問題としてそこまで徹底してやれるか。本当の良心的管理をするというなら私はある程度のごことは預かつた以上、市が牧場が責任を持ちますという心がまえが必要ではないかと思ひます。そういう気がまえがあつてこそ本當に良心的管理ができると思う。その点いかにお考えでございますか。

○ 農産課長（石井 謀君） ただいまの中村議員さんのお考えもつとまでございますが、私ども実際的にはじめて

のことでございまして、いろいろあらゆる面に検討して見、あるいはまた専門的な方々の意見等もお伺いいたしましてこの医療費の問題につきましては、応急的な処置がとりあえずできるようなものを吟味して参つたわけでございますが応急的と申しますと、いろいろ幅広いわけでございますが、長びくような病氣あるいは外傷そういうようなものにつきましては、共済医に共済でお願いすることにいたしました。たとえば足を切つたとか、あるいはまたちよつとかぜぎみだというような応急的あるいは初歩的なものについてはこの医療費の中で見ていきたい。こういうようなことでお願いしたわけでございます。

○ 二〇番（中村省吾君） 以上、私が申し上げましたのは、条例の管理上の責任やら、牧場設置の目的、その他から考えまして、こういう条例が日常の飼育上、現実問題としては大きな問題に将来なる可能性が強いということから御質問申し上げたわけでございますが、十分これらの点に留意されて支障のないように運用していただくことを要望いたしまして、了解いたします。

○ 二八番（望月照正君） 一〇ページの教育費につきましてちよつと伺います。この小学校費の中の補正減と補正増の御説明をもう一ぺんお願いしたいと思ひます。

○ 教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 予算編成時点におきまして、一応富崎小の用務員室、宿直室が土台、屋根とも相当いたんでいる。これは建てかえる必要があるというふうなことから一応改築工事を計画、その時点ではしたのでございますが、それが科目を当てはめます際に修理費に組み入れてしまいましたので、このたびこれを工事費のなうに組みかえる。こういうものでございます。

○ 議長（西村真次君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

日 程 の 追 加

○ 議長 (西村真次君) この際おはかりいたします。本議会の申し合わせ協定に従いまして、常任委員会の委員の改選を行ないたいと思いますが、これを今日の日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて日程は追加されました。

常任委員会委員の選任

○議長（西村真次君） おはかりいたします。常任委員会の委員の改選を行いますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて決しました。

重ねておはかりいたします。ただいまの改選決定により現在の各常任委員会の委員は全員それぞれ辞任し、全委員会ともに欠員となつたことといたします。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて決しました。

なおおはかりいたします。ただいま決定のとおり、各常任委員会とも委員が欠員となりましたので直ちにこれが選任を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつてこの際選任することに決定いたしました。

これより常任委員会の委員を本市委員会条例第四条の規定により選任いたします。局長をして報告いたさせます。

○事務局長（高梨清一君） 報告いたします。

総務常任委員会委員 安西益男さん、石井輝久さん、菊井敏博さん、田中祿郎さん、黒川 正さん、西村真次さん、江田徳太郎さん。

經濟常任委員會委員 中村省吾さん、藤田益治さん、小柴 孝さん、小沢恵太郎さん、山口 康さん、三幣 勇さん
望月照正さん。

文教民生常任委員會委員 吉田勇治郎さん、嶋田石蔵さん、遠山ヨネ子さん、安沢徳順さん、磯辺 博さん、秋山六
三郎さん、五十嵐昇さん。

建設常任委員會委員 島野茂樹郎さん、伊賀多朗さん、飯田義男さん、石井 正さん、鈴木市蔵さん、白熊盛太郎さ
ん、田村源治郎さん。

○ 参考に議會運営協議会の委員を申し上げます。中村省吾さん、白熊盛太郎さん、秋山六三郎さん、田村源治郎さん、
藤田益治さん、嶋田石蔵さん、石井 正さん。以上でございます。

○ 議長 (西村真次君) 以上のとおり、各常任委員會の委員に選任いたします。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて決しました。

この際、同条例第五条の規定による各常任委員會において互選されました正副委員長を報告いたします。

総務常任委員會委員長 黒川 正君、 同副委員長 安西益男君

經濟常任委員會委員長 藤田益治君、 同副委員長 三幣 勇君

文教民生常任委員會委員長 五十嵐昇君、 同副委員長 遠山ヨネ子さん

建設常任委員會委員長 伊賀多朗君、 同副委員長 白熊盛太郎君

議會運営協議會委員長 田村源治郎君、 同副委員長 石井 正君

日 程 の 追 加

○ 議長 (西村真次君) この際おはかりいたします。館山市・富浦町及び三芳村学校給食組合議会望月照正君、西村真次には六月十一日づけをもつて都合により辞任されました。よつて同組合規約第七条第二項の規定により、これが補欠選挙を本日の日程に追加し、直ちに選挙を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて三市町村学校給食組合議会議員の補欠選挙を日程に追加し、選挙を行なうことに決定いたしました。

館山市・富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員補欠選挙

○ 議長 (西村真次君) これより館山市・富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙を行います。補欠議員の数二名であります。

おはかりいたします。選挙の方法は地方自治法第百十八条第二項の規定により指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねておはかりいたします。指名の方法は議長において指名することになっていたと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて議長において指名することに決定いたしました。

これより指名いたします。学校給食組合議会の議員に磯辺 博君、三幣 勇君を指名いたします。

おはかりいたします。ただいま議長において指名いたしました磯辺 博君、三幣 勇君を館山市・富浦町及び三芳村学校給食組合議会の議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつてただいま指名されました磯辺 博君、三幣 勇君が当選されました。

ただいま三市町村学校給食組合議会議員に当選されました磯辺 博君、三幣 勇君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

閉 会

○議長 (西村真次君) おはかりいたします。本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よつて会議

規則第七条の規定により本日をもつて第二回市議会定例会を閉会いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて本定例会はこれにて閉会することに決定いたしました。ごころうさまでございました。

午後一時四十九分

閉 会

○ 本日の会議に付した事件

- 一、報告第三号及び報告第四号
- 一、議案第四十五号乃至議案第五十八号
- 一、日程追加 常任委員会委員の選任
- 一、日程追加 館山市・富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員補欠選挙

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

議員

議員

西村真次
中村有吾
三井 角力

